



会社は淵上さんを運輸所に戻さないため おかしい取扱いを続けてきた

淵上さん運輸所復帰裁判証人尋問

■斉藤本部副委員長

9月15日東京地裁で淵上裁判の証人尋問が行われました。最初に
斉藤孝紀本部副委員長が証言をしました。

- ・ J R東海労は本人の意に沿わない出向はやめるべきと30年以上前から一貫して求めている。
- ・ 協約協定改訂交渉で、組合として認められない項目を除いて基本協約締結を求めたが会社は締結を拒否した。
- ・ 淵上さんの出向を解除したのに運輸所に戻さなかったのはJ R東海労の組織の弱体化を狙っているからだ。人事課所属で勤務免除などという取扱いは前代未聞だ。会社は総合的判断というだけで具体的な理由を明らかにしない。
- ・ 運輸所の54歳以上出向再開は対象35名中26名がJ R東海労だ。J R東海の社員数からいってもJ R東海労は1%に満たない。組織の弱体化を狙っているのは明らかだ。



そして裁判長に対し「出向解除後の人事課所属・勤務免除は淵上さんを運輸所に戻さないためだ。淵上さんは一貫して運輸所復帰を求めている。出向について協約も結んでいない。元職場に戻す判断を求める」と強く訴えました。

反対尋問で会社側弁護士は、例によって毎年の協約締結における組合主張のわずかな違いを矛盾だとしてきましたが、斉藤副委員長は「組合は不本意ながら協約を締結している。しかし一貫して出向にあたっての本人同意・54歳原則出向制度廃止を求めてきている」と堂々と証言しました。

「突然言われても…記憶がない」の連発 これが人事の責任者か!?



淵上裁判証人尋問

■会社側柴田元人事課長

続いて当時幹鉄事の人事の責任者だった柴田元人事課長が証言を行いました。組合側からの反対尋問で柴田課長は、協約締結について組合が締結を拒否しているかのような証言をしたり、淵上さんが新横浜駅配属を不服として苦情申告や裁判をおこしているのに「本人の内心はわからない」と証言。そして驚くべくことに会社が準備書面で主張している判例の内容や、淵上さんが出向を不服として行った仮処分での議論などについて、「突然言われても記憶がない」と何度も繰り返すなど、人事の決定責任者失格としか言えない証言を何度も繰り返したため傍聴席からは失笑がおきました。★淵上さんの証言は次号。